

ウレタン防水の下地調整

- ・レジアンダー塗布後、当日ノンプライマーでウレタン防水材が塗布できます。
- ・養生時間 表面全体が乾燥（色で確認）してから約2時間

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6～0.8/回 粗面は状態による	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
	無溶剤プライマー として使用	混和液のみ	刷毛・ロー ラー	約0.1～0.15 粗面は状態による	吸い込みが激しい場合は追い塗りが必要です。
アスファルト 防水層撤去後	残存するアスファ ルトとの仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体減量または水添加）	コテ・刷毛 ・ローラー	0.6～0.8	密着していないアスファルトを残さないよう注意して下 さい。プライマーを使用すると残存アスファルトを溶かす 恐れがあるので、ノンプライマーで施工して下さい。アス ファルト類に対し優れた付着性を有します。
砂付きルーフ ィング(シルバ ートップも可)	砂付きルーフィン グ・シルバートッ プとの仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体減量）	コテ・刷毛 ・ローラー	0.8～1.0	シルバートップに対し接着良好です。ローラーで施工する 場合は、水を添加せずに粉体を減量して下さい。（シルバ ーに対する接着力確保のため）
ゴムシート防 水層撤去後	ゴムシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体減量または水添加）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6～0.8 粗面は状態による	クロロプレンゴム系接着剤に対し優れた付着性を有しま す。
塩ビシート防 水層撤去後	塩ビシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体減量または水添加）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6～0.8 粗面は状態による	NBR系・エポキシ系接着剤に対し優れた付着性を有しま す。
ウレタン防水 層撤去後(通気 緩衝工法)	通気マット用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は粉体減量または水添加）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6～0.8 粗面は状態による	ネオプレン系・ウレタン系接着剤に対し優れた付着性を有 します。
ウレタン防水 層	ウレタン防水層と の仲介接着	混和液：粉体 = 1 : 1	刷毛・ロー ラー	約0.2	混和液のみだとはじきが起こる場合があります。粉体を入 れるとはじかなくなります。ウレタン防水材及びトップコ ートに対し優れた付着性を有します。

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
ポリマーセメント系防水材	溶剤による防水層の軟化防止及び仲介接着	混和液のみ	刷毛・ローラー	約 0.1 ~ 0.15	レジアンダー混和液は耐溶剤性に優れ、下地への溶剤透過も軽減するので既存下地の溶剤による軟化を抑えます。ウレタンプライマーの使用は厳禁です。ポリマーセメント系防水材及びトップコートに対し優れた付着性を有します。
ポリエステルFRP防水材	不飽和ポリエステルとの仲介接着	下地調整含む 通常配合(刷毛・ローラーの場合は粉体減量または水添加)、プライマーとして 混和液：粉体 = 1 : 1	コテ・刷毛・ローラー	通常配合 0.6 ~ 0.8 1 : 1 配合 約 0.2	接着力確保のため、トップのパラフィンサンディングにより除去して下さい。不飽和ポリエステルに対し優れた付着性を有します。
磁気質タイル ガラス 鉄 ステンレス	鉄との仲介接着	下地調整含む 通常配合(刷毛・ローラーの場合は粉体減量または水添加)、プライマーとして 混和液：粉体 = 1 : 1	コテ・刷毛・ローラー	通常配合 0.6 ~ 0.8 1 : 1 配合 約 0.2	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
アルミ	アルミとの仲介接着	混和液：粉体 = 1 : 1	刷毛・ローラー	約 0.2	アルミに対し接着良好です。酸化皮膜の無いアルミとセメントが直接接触すると、反応により水素ガスが発生します。ほとんどのアルミは酸化皮膜に覆われていますが、念のため試験塗りを行って下さい。